

タイの子どもたち支援及び交流ツアー報告書



社会福祉法人 三愛学園
児童養護施設 さんあい

1. 実施に至る経緯

2016年6月にさんあいは創立40周年を迎えることができました。その節目を記念して、「40周年記念事業」を2015年度と2016年度の2年間に渡り実施いたしました。その中の1つがタイのチョンブリ県にある児童養護施設「豊かな人生の家」及びチャンタブリ県マカナム郡バンドンブレ小学校に通う貧困家庭の児童への支援です。このことは、さんあいの理念である聖書の教え、「受けるより与える方が幸いである。」ということをもさんあいの子どもたちにも体験してほしいという願いも込められています。さんあいは多くの方々から支えられて40年を迎えました。皆様からのご支援は必要なくなったという状況ではありませんが、組織として社会に対しお返しする年齢に達したと考えています。そして子どもたちや職員に対し「与えること」の実践として、国内外の貧困に苦しむ子どもたち、特にタイの子どもたちの支援は継続してゆこうと願っています。この支援を通して、神様がさんあいと子どもたちを更に成長させてくれると信じています。

2. 子どもたちの参加

本事業を実施するに当たり、子どもたちや職員の「与えること」の意識を高め積極的に参加してもらうよう促すことは必須事項です。「タイの子ども支援」では、プロジェクトチームを編成して2015年3月から協議を重ね、同年11月には、タイのカウンターパートと連携しながら交流ツアーを含めた支援内容を決めることができました。そして同年12月23日のクリスマス会の場で、さんあいの子どもたち全員に支援内容を共有し、特に中高生たちに交流ツアー実施と参加に興味があるかどうか聞くことができました。そして希望者には参加理由を書いてもらい、1人1人の面接も実施して、2016年3月に2名の高校生と1名の中学生が参加者として選ばれました。

子どもたちと職員が、与えることの大切さを学び具体的な行動として示してくれたのが、2016年4月に発生した熊本大震災でした。被災地の窮状は連日テレビ等で報道されていたこともあり職員と子どもたちは募金箱を回して義援金を集めました。そして早速被災地にある児童養護施設に送りました。また、5月29日の創立40周年記念祭には、タイの子どもたちと熊本の被災地のために各ユニットで出店してくれたお店の売り上げの半分を寄付してくれました。このような子どもたちと職員の参加によりタイの子どもたち支援と交流ツアーへの期待が園内に高まっていきました。

交流ツアーへ参加する子どもたちは、6月、7月、8月と3回のオリエンテーションの時を持ち、現地での交流の内容や必要な携行品等を話し合いました。そして、支援地のバンドンブレ小学校では全校の生徒と併設された保育園児の給食に日本のカレーを作ること、児童養護施設「豊かな人生の家」では、当地の子どもたちと一緒に巻寿司を作って食べることにしました。また交流会では、日本の浴衣と甚平を着て披露し、現地の子どもたちにも試着してもらうことにしました。

3. 親権者と児童相談所の協力

交流ツアー実施を可能にしたのは、親権者の同意と児童相談所の了解でした。これらが得られなければ、子どもたちのパスポートを取得し海外に行くことは不可能です。今回の交流ツアーの趣旨に関係者の皆様が賛同して頂いたことを心より感謝いたします。

4. タイの子どもたちへの支援の概要

A. 児童養護施設「豊かな人生の家」

場所： タイ、チョンブリ県 アングシーラ郡

名称：「豊かな人生の家」

定員：28名

職員数：9名



施設概要

タイ政府の運営する児童養護施設で受け入れが困難な親を失ったHIV/AIDS孤児救済のために、カナダ人宣教師であるカレン サンチェス氏により、北米のクリスチャンの支援を受けて設立された。当初は地域の一軒家を借り上げて養育を行っていたが、孤立化問題等で運営が困難となり、現在1か所に4棟のホームを建設して、1つのホームに男女別7名の子どもたちを養育している。行政の認可との連携のもとで養育を行っているが財政的な支援は一切なく、海外からの支援金により運営されている。



さんあいからの支援

さんあいでは、政府からの財政支援のない「豊かな人生の家」の運営費の一部を支援したいと考えています。将来的には、子ども同士や職員同士の交流を通じて子どもの権利擁護やケアワーク等でさんあいの知見や経験を共有できるような関係構築を願っています。また支援は、「豊かな人生の家」の協力者であり、施設の近隣にお住まいの日本人宣教師の浜名師と連携しながら行います。

B. タイの貧困家庭の子どもたち（バンドンプレ小学校）

地域 チャンタブリ県、マカーム郡 バンドンプレ小学校（生徒数 約150名）

産業

80%の人々が農業で生計を立てている。竜眼、ライチ、ドリアン、ランプータン等の果樹栽培が盛んである。

この地方の一人あたりの年間平均所得

18,000バーツ～19,000バーツ（約63,000円から66,500円程度）これは、タイでの一人当たりの最低必要年間所得30,000バーツ（約105,000円）よりも低い。



地域の課題

生徒たちの家は農家が多く現金収入が少ないことからお金を教育費に回せず92%の子どもたちが勉強の途中で退学又は休学してしまう。このような状況から45%の親たちがバンコクなどの大都市へ日雇いの仕事を求めて出稼ぎに出ている。

支援方法

農業



①水を効率よく管理する方法を指導する。②低コストでできる有機肥料の知識や生産指導を行い、化学肥料に頼ることなく農産物の収穫を増やせるようにする。③現金収入増加のために養鶏グループ等を編成して、飼育方法やタマゴの管理方法を指導して現金収入の増進を図る。

教育

①子どもたちの職業訓練の1つとして、学校の中で給食用のキノコの栽培を行う。②子どもたちの職業訓練の1つとして、学校の中で給食用のはちみつ生産加工を行う。③普通学校での教育の機会が少なかった障害のある子どもが健常児と同じクラスで学べるように、県の機関と連携して教師ヘトレーニング等を行う。



保健

①郡の保健センターと連携して母子保健サービスを充実する。②他の団体と連携して、妊娠している女性や成人女性に対して家族計画や乳幼児にケアについての指導を行う。③高血圧や糖尿病の危険ある成人に対して、予防のための指導を行う。

さんあいからの支援

この支援事業は、タイ国最大のNGOである財団法人ワールド・ビジョン・タイランドが実施しています。さんあいでは、バンドンプレ小学校に通う6名の子どもたちを各ユニットで支援しながら活動を支えます。

5. タイの子どもたちとの交流ツアー旅程（5泊6日）

目的：①タイの人々と交流し、日本に文化を伝え、タイの文化を学ぶ。

②日本や世界で弱い人のために働けるよう視野を広げる。

参加者：RK（高3男子）、YK（高3女子）、AK（中3女子） HI（女子職員）、園長

曜日	スケジュール	備考
8/17 水	18時00分 さんあい出発（園長は自宅から直接空港へ） 21時15分 羽田国際便ANAカウンター前に集合（岡部18時58分発） 24時30分 全日空便にてバンコク出発（飛行時間 約6時間30分） 機内泊	①スーツケースは8月15日に宅急便に空港に送っておく。 ②機内持ち込みのバックには、貴重品、薬、カーデガン等を入れておく。
8/18 木	05時00分 バンコクスワナブーン空港着 入国手続き、両替、携帯SIMカード購入、電車で市内の最寄駅へ、駅から徒歩5分でホテルへ 09時00分 ホテル着 チェックイン手続き、朝食、休憩等 13時00分 昼食（徒歩10分のデパートのフードコートへ） 14時00分 散策、ミニ観光、お土産物下調べ等 16時30分 ホテルで休憩 18時30分 夕食（フードコートか近くのレストランで） 20時00分 ミーティング 21時00分 就寝	①ホテルチェックインは、早朝なので数時間ロビーで待つ可能性がある。 ②食材の購入は必要に応じて
8/19 金	05時00分 起床 朝食 06時30分 チェックアウト・チャンタブリ県マカナム郡へ出発 10時00分 バントウンプレ小学校着 あいさつ後に昼食づくり開始（カレーライス160人分） 12時00分 小学生と昼食会 13時30分 サッカーボール、バレーボール、書籍の寄贈 14時30分 支援チャイルドと交流 支援事業の見学 17時00分 ホテル着・チェックイン 18時30分 夕食・散歩・ミーティング 22時00分 就寝	①スーツケースは持って行く。 ②WVタイ職員のタノンさんが6時30分にホテルに迎えに来てくれ、現地を案内してくれる。途中でトイレ休憩あり。 ③学校に着いたら、まず恥ずかしがらずにしっかりと挨拶する。挨拶が終わったら、早速カレー作り。 ④交流会は、浴衣と甚平を披露する。 ⑤お土産贈呈と記念撮影

8/20 土	06時00分 起床 06時30分 市内見学 朝食 07時00分 チェックアウト 「豊かな人生の家」へ出発 途中にスーパーに寄って」カニカマボコ購入 09時30分～10時00 「豊かな人生の家」着 あいさつ・昼食作り開始 12時30分 昼食・交流会 13時30分 施設見学・寄付の贈呈 14時30分 バンコクへ出発 18時00分 バンコク着 ホテルチェックイン 休憩 19時30分 夕食・散歩・ミーティング 22時30分 就寝	①施設に着いたら、しっかり挨拶をする。また、子どもや職員と積極的に話す。 ②巻き寿司づくり、施設の人に教えながら手伝ってもらおう。 ③交流会は、浴衣と甚平を披露する。 ④お土産と寄付金の贈呈と記念撮影。
8/21 日	08時00分 起床 朝食 09時30分 日曜礼拝へ 10時30分 バンコク日本人教会着 礼拝 12時00分 昼食 13時30分 観光 17時00分 ホテル戻り 19時00分 夕食・ミーティング 22時00分 就寝	①バンコク日本人教会は、ホテルから電車と徒歩で45分程度の場所で王宮へ行く途中にある。 ②観光は、ワットプラケオ（王宮）とワットポー（涅槃仏寺）を観光（短パン、サンダルはNG） ③タクシーを2台使う際は、（園長、YK、AK）と（職員、RK）に分かれて乗る。
8/22 月	08時00分 起床 朝食 10時00分 チェックアウトを済ませ バンコク観光 買い物 16時00分 ホテル戻り荷物の整理、シャワー、着替え、夕食 18時30分 チェックアウト、電車又はタクシーで空港へ 19時30分 空港着 チェックイン 22時10分 ANA便で羽田へ出発（飛行時間 約5時間） 機内泊	①一部屋はキーブしておき、スーツケースはその部屋に置いて行く。ホテルのプール、近くの観光、買い物等その時の皆の希望で決める。翌日がソフトの試合なのでなるべくゆっくりと過ごす。ホテルに戻ったら順番でシャワーと着替えをする。
8/23 火	06時20分 羽田空港着 010時00頃 さんあい着	①荷物は宅急便で送り、貴重品は持って帰る。

役割分担

会計：園長、職員（現地の支払い・清算等は園長、職員は補助役）

保健：職員（旅行中に常備薬を保管、参加者の健康の相談役）

お土産：園長、R K（お土産を持って行き、現地で手渡す役）

食材：Y K、A K（食材を日本から持って行く役、重すぎる場合は、他の参加者にも分散する）

交流会：Y K、A K（浴衣と甚平は其々が持って行くが現地での説明はY KとA K）

タイムキーパー：R K、Y K 時間厳守で行動し朝起きない人や出発時間に間に合わない人の声掛けをする役。

写真：園長、職員（職員が小型カメラ一台保管、園長は補助役）

携行品

衣類

下着・靴下：3日分（一枚は着てゆくので計4日分）

Tシャツ：2枚 シャツ：3枚（一枚は着てゆくので計6着）

ズボン又は長いスカート：1着（1着ははいてゆくので計2着） 短パン：1着 水着：一組

ジャージ等上に羽織る物：1着（手荷物のショルダーに入れておく）

靴：一足 サンダル：一足

*衣類は、現地で日本の3割ぐらいの値段で買えます！

*下着・靴下は、石鹸で洗濯して使うことができます。

その他

洗面用具 貴重品入れ メモ、筆記用具（手荷物のショルダーに入れておく）勉強道具！

*ハサミ、ナイフ等は、スーツケースに入れる、手荷物に入れておくと没収されます。

6. 旅の日誌

8月17日、18日 _____

(1日の様子)

羽田空港へは、早い時間に集合して正解であった。チェックインや出国手続き等はスムーズにすることができた。タイの到着は早朝4時30分で、市内へ行く電車に乗る前の約1時間半を携帯電話のSIMカード購入と両替に費やした。その間に子どもたちはコーヒーを飲んで休んでいた。ホテルは7時30分頃に到着。14時までチェックインできないというので約3500円をはらって早朝チェックインをして部屋で休めた。午後は昼食や買い物の下見をした。睡眠不足か体調が万全ではなかったのか、昼食のスーパーのフードコートでは、タイ料理を進んで食べる児童はいなかった。夕食もタイ食は避けてKFCで済ませたこともあり、夕食時のミーティングでツアーの目的（タイ文化を知ること）を再確認した。



8月19日 _____

(1日の様子)

小学校へは予定の時刻の10時30分に到着し、カレー作りを給食のおばちゃんの助けで行った。カレーの具は、連絡した通りに、カットされて煮詰められていたが、頼んでおいた具の玉ねぎ、ニンジン、ジャガイモ、豚肉の他に大量の青りんごが入っていた。鍋の水の量が少ないの

で、大なべに具を移し具の上10センチぐらいまで水を足してもらった。約30分後に具が柔らかくなったので、持ってきたカレールーを包丁で小さく切って鍋をかき回しながら全部入れた。そして、おばちゃんや小学生たちに味見をしてもらった。みんな「美味しい」と言ってくれたが、何か遠慮がある様子を察して、「タイのカレーのようにもっと甘くしたらどうか？」と提案したら、おば





ちゃんもそう思っていたらしく、笑顔で約500グラムの砂糖を投入した。2回目の味見は、おばちゃんも小学生たちも心の底から「美味しい」と言っているようだったので安心した。

11時頃、まず幼稚園児が食堂に集まり、さんあいメンバーで一人ひとりのプレートにご飯とカレー、副菜をよそってあげた。みんな本当に美味しそうに食べていたので安心した。それから小学生低学年の順に食堂に集まってきたので、同じように配食し

た。生徒たちが美味しそうに食べている様子を傍に行ってみることができた。さんあいのメンバー

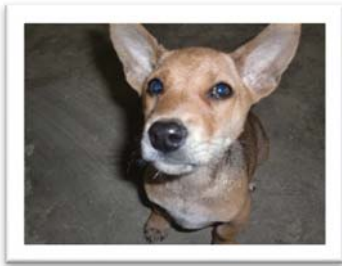
や学校の先生、そしてワールドビジョンの職員も別テーブルに用意されたカレーと副菜、デザートを楽しんでいただいた。カレールーの濃さは丁度良い状態で、事前の打ち合わせ通り現地で用意してくれた160人分の具材と日本から持って行ったルーの量がピッタリだった。食事の後、12時半より食堂の隣にあるステージ付き講堂



で、小学生との交流会を行った。最初は小学生の代表によるタイ伝統舞踊の披露、お返しに日本の浴衣と甚平を披露し、小学生や先生に試着をしてもらって大いに盛り上がった。最後は、持ってきたプレゼントを渡して笑顔で記念撮影をした。約1時間の交流会だった

が小学生もさんあいメンバーも楽しいひと時を過ごすことができた。その後は、お隣の寺院や幼稚園を見学し、3時30分頃小学校を出た。チャンタブリ市内のタイで最大のカトリック教会を訪問した後、5時30分頃にホテルに到着した。夕食は、庶民的なタイ料理のレストランで食べる。今日は、昨日と比べると、みんなタイ料理を食べていた。特に空芯菜等の野菜料理が気に入った様子だった。9時近くにホテルに帰った後に、ミーティング

をして就寝した。



8月20日

(1日の様子)



朝食をゆっくり食べて7時30分ごろにホテルを出発した。途中でカニカマを購入し予定より少し遅れて10時30分頃に「豊かな人生の家」に到着した。施設では、日本人宣教師の浜名先生の奥さんが待っていてくれ、巻きずしを作るキッチンに案内してくれた。すでにご飯はタイ産の日本米を炊いてあったので、早速酢飯を作り、さんあいのメンバー中心に巻寿司作りを開始した。施設の子どもたちも巻寿司づくりを手伝ってくれたが、自分の分を巻くと、それを切ってもらって皿に乗せ、床に座ってしまいみんなの分は作ってく

る様子はなかった。これがタイのお手伝いのやり方ようだった。みんなで楽しく作ることを想像していたので、少しがっかりした。最初に自分の分の寿司を作った子どもは、待ちくたびたようだったので、先に食べてもらうことにしたが、さんあいのメンバーは、具がなくなるまで頑張ってくれた。食事会の後は、施設の子どもたちにより讃美歌とお祈りがあった。その後は、交流会というよりも、質疑応答のような時間を40分程度持った。さんあいの子どもたちの1日の生活の様子やアルバイトのこと。みんな興味津々で途切れることはないくらい次から次に様々な質問が、職員や子どもたちからあった。「施設に入所していることで学校や地域で差別をされたこ



とはないか？」という質問があったが、K兄弟はしっかりと答えていたが、Aちゃんは若干戸惑っていた様子も見られた。また、「アルバイトで時給はどれくらいか？」という質問にRくんが「800円以上」と答えたが、そこにタイの人たちは大いに反応し、タイでは1時間105円だと教えてくれた。その後着物の試着会とプレゼントの贈呈、そして寄付金の贈呈、記念撮影を行った。最後に子どもたちの居室を見学して、お別れした。帰り道に浜名先生の計らいでモンキーマウンテンのサルや海を見ることができ、子どもたちは大喜びだった。その後、高速道路を通過して予定通り6時頃にはホテルに到着した。夕食は、近くのタイ・中華料理店で済ませたが、みんな美味しいと沢山食べていた。長い一日だったが、ミーティングでは、児童たちは満足だったコメントを発していた。10時頃に解散し就寝した。



8月21日

(1日の様子)

朝は、ゆっくり起きて8時30分に朝食を食べ、9時30分にホテルを出てバンコク日本語教会へ行き礼拝に参加した。みんな久しぶりの礼拝だったので、洗礼式があって長時間であったが、最期まで表情が良かった。また、礼拝後は中岡牧師夫人にタイの生活事情等を教えてもらい積極的に会話していた。観光は、恐らく35度以上はあったと思われるほど暑い中で歩く距離が長かったが、みんな愚痴を言うこともなく楽しんでた。世界各国のツーリストがいることに驚いた様子であった。結局、朝食が遅かったこと、暑さでジュース等を飲んだことで、昼食は取らずに午後1時から5時ぐらいまでの間の観光をたのしんだ。子どもたちは、観光やタイ事情に関しては、もっとタイを楽しむために今後



の準備のオリエンテーションを工夫し、充実したほうが良いと感じた。5時30分にホテルに帰った後、朝から礼拝の時以外は、歩きとおしだったので、みんなで近くにあったフットマッサージを体験して、足の疲れをいやした。お土産を買うことは、旅行の大切なプログラムで、友達や血縁者を思いながら、大きなスーパーで1時間程度の楽しい買い物の時をもった。夕食は、スーパーのフードコートで済ませた。夜は最後のなので、ホテル近くのナイトバザーに行き、散歩しながら買い物を楽しんだ。体調を崩すメンバーはおらず、辛い物を食べた後には、必ず胃薬を飲んで予防していることが良いようだ。



8月22日

(一日の様子)

今日も昨日同様にゆっくり起床して9時に朝食をとった。その後女性3人はチェックアウトして荷物を男性の部屋に移動した。ホテルのプールがあったが誰も入る気がなく、昨日の買い物の続きをホテル周辺のお店でした。12時30分にタノンさん（ワールドビジョンの職員）が案内してくれ、チャンタブリに連れて行ってくれたドライバーが待っているレストランに向かった。途中で乗ったタクシーのドライバーに騙されて、大型の高級宝石店に連れてゆかれ、日本語の話せる店員のセールス攻勢にあう。結局園長が真珠を買わされ、その後早急に店を離れた。昼食は、小さな器のタイラーメンを何杯も食べる店に招待され、日本のうどんそばのように食べた器を重ね40センチほどになるぐらいみんなで沢山食べた。昼食代は、ドライバーがご馳走してくれた。さんあいのメンバーは、ドライバーやタノンさんに好感を持っており、昼食後の別れを惜しんでいた。その後最後の買い物をしてホテルに戻り、荷物をまとめてから順番にシャワーを浴びた。空港までは、駅までスーツケースを引いて歩き、電車で行く予定であったのが、当初の予算より全体的に安くあがりそうだったので、また外に出て汗をかくのも大変なので、ホテルの小型バスを借りて空港まで行った。空港では問題なくチェックインして搭乗することができた。



8月23日

(一日の様子)

無事に予定時間に帰国、みんな疲れた表情だった。昨日の東京は台風の影響で公共交通機関が混乱したようだが、幸い本日は問題なく正常であったので日程的にも大いに恵まれた。通勤ラッシュ時ではあったが、スーツケースは空港で宅配便に預けたので、それほど苦労することなく無事にさんあいへ戻ることができた。子どもたちは、休んだ後に25日の埼玉県下の児童養護施設のソフトボール大会に備えていた。



7. 旅の感想と後日談

RK

タイの公立小学校の授業は、質がバラバラで自習も多く、日本の学校はとても恵まれていることを強く感じました。

YK

タイの生活文化について教えていただいたり、日本の生活文化を教え一緒にカレーや巻き寿司を作ったのがとても楽しかったです。タイは物価が安く、優しくていい人ばかりでした。

AK

タイで一番印象に残ったことは、礼儀正しかったことです。タイの子どもたちはみんな合掌して挨拶をしてくれました。私はそれを可愛いと感じ、同時に素晴らしいと思いました。

職員

タイの子どもたちのキラキラした笑顔が今でも印象強く残っています。一緒に行った中高生3人の普段見えない顔を見て、また一歩成長したように感じました。

園長

25日のソフトボール大会では、交流ツアーに参加した3名はさんあいチームの主力メンバーとして大活躍し、見事にBブロックで準優勝し、全体でも最優秀チームワーク賞を受賞しました。今回の交流ツアー実施にあたり、本人が希望してもこのように海外に行くことのできない多くの貧困家庭の子どもたちがいることを思いました。その点で考えますと、家庭には恵まれていませんが、今回参加した3名の子どもたちは大変に恵まれています。ですから、この3名には、ツアーを通じて「与えること」の大切さや将来社会や人々に貢献できるような職業を目指すように促しました。その成果でしょうか、RKは将来海外で働く仕事がしたいと経済学部を目指して受験勉強に集中しています。YKは、保育士を目指して大学の福祉学部に進学しました。AKも海外で援助活動をするような仕事に憧れ始めています。交流ツアーは、さんあいの子どもたちに対する投資のようなものだと思います。子どもたちが将来、福祉の現場や海外援助の現場で活躍し、さんあいから受けた以上に弱い人々に「与えること」ができれば、投資の何倍もの益を社会に還元することになると信じています。